

欧州議会選挙の結果が示すこと

◆5年に1度の欧州議会選挙、ブレグジットに揺れる英国も参加

欧州連合(EU)加盟28ヵ国で5年に1度の欧州議会選挙が、2019年5月23～26日に行われた。選挙に影響を与えないように英国は3月までにEUを離脱し、総議席数は削減される予定だったが、離脱期限が10月に延期となり、総数751議席は凍結、英国は離脱まで73議席を占める。新欧州議会は、7月2日に招集される。

今回の結果で注目すべき点は4つある。1) 2大会派(表1黄色)が過半数割れ、2) 投票率下落が反転、3) 反EU政党は予想ほどは伸びず、4) 緑の党が躍進。

表1 2019年の欧州議会会派別議席獲得数 2019年6月6日時点

会派	議席数()は前回
EPP (中道右派) Group of the European People's Party (Christian Democrats)	179 (216)
S&D (中道左派) Group of the Progressive Alliance of Socialists and Democrats in the European Parliament	153 (185)
ALDE&R (中道) Group of the Alliance of Liberals and Democrats for Europe + Renaissance + USR PLUS	106 (69)
Greens/EFA (緑の党) Group of the Greens/European Free Alliance	74 (52)
EGR (保守改革、英保守党等) European Conservatives and Reformists Group	64 (77)
ENF (仏国民連合、伊同盟等) Europe of Nations and Freedom Group	58 (36)
EFDD (英ブレグジット党、伊五つ星運動等) Europe of Freedom and Direct Democracy Group	54 (42)
GUE/NGL (極左) Confederal Group of the European United Left - Nordic Green Left	38 (52)
無所属	9 (20)
その他 既存の会派に属さない政党出身	16

◆2大会派が議席減で過半数割れ、親EUの中道と連携か、今後のEU運営に影響

中道右派でキリスト教民主党系の「欧州人民党(EPP)」と、中道左派で社会民主党系の「社会民主進歩同盟(S&D)」が議席を大きく減らし、2大会派合計で得票率が初めて過半数を割り込んだ。フランスのマクロン大統領が率いる「共和国前進」が属する中道「欧州自由民主同盟(ALDE&R)」と合計すれば、過半数に達する。これまで2大会派は、慣例として議長などを2年半ずつ交替で務めるなど協調してきたが、連携の協議結果によっては、今後の議会運営などに影響が出るだろう。

◆投票率下落に歯止め、50%台を回復

2つめの注目点は、投票率だ。

1979年に西欧9カ国で市民による直接選挙が実施されて以来、欧州議会選挙は9回目となる。

表2 欧州議会選挙投票率の推移 (%)

年	1999	2004	2009	2014	2019
EU 平均	49.51	45.47	42.97	42.61	50.97
英国	24.00	38.52	34.70	35.60	36.90

出典：表 1, 2 共に <https://election-results.eu/national-results-overview/>

初回の投票率は62%だったが、その後は下降を続け、過去20年間は40%台だった。しかし、今回は歯止めがかかり50%を超えた。市民の関心が戻ってきたようだ。とはいえ、国により状況は異なる。ドイツ、フランス、ポーランド、スペインなどでは投票率が大きく上昇した。一方英国では、元々投票率はEU平均値を下回っており、今回もブレグジット党が圧勝し（得票率3割）、保守党と労働党が惨敗という波乱の結果となったが、投票率からみると市民の関心度は微増に留まる。

◆反EU政党は予想ほどは票が伸びず。ブレグジット騒動が反面教師か

各国の地方選や世論調査の結果から、EU懐疑派、ポピュリスト勢力で、右翼のフランスの「国民連合」、イタリアの「同盟」、ドイツの「ドイツのための選択肢（AfD）」、オランダの「自由党（PVV）」、オーストリアの「自由党（FPÖ）」、左翼ではギリシャの「急進左派連合（SYRIZA）」、スペインの「ポデモス」、イタリアの「五つ星運動」などの大躍進が予想されたが、議席数は3割程度にとどまった。

EUトウスク大統領は、「英国のEU離脱が反EUのプロパガンダや偽ニュースへのワクチンになった」と分析した。投票者だけではなく、過去に脱ユーロや脱EUを掲げていた政党自体も、EUの内なる改革者を掲げるなど、軌道修正している。

◆緑の党が、政権政党の政策に不満を持つ若者らの支持を集める

今回躍進したのが、親EUで環境や人権に配慮する緑の党だ。若年層の2～3割の票を集めた地域もある。SNSを通じて広まった毎週行われる大規模な環境デモ、ユーチューバーによる政権政党の失策の分析動画の拡散などで、若者が政治に関心を持った。ドイツの世論調査では、緑の党が支持率首位に立つ異変も生じている。こうした新しい動きは、今後の欧州政策にも影響を及ぼすだろう。 【赤山英子】